

能公演のため、5月11日から10日間、フィンランドとスウェーデンを訪れた。喜多流大島能楽堂(福山市)を拠点に活動するシテ方で父の大島政允を団長に、出演者やスタッフら総勢21人。日本とフィンランドの国交90周年を記念したヘルシンキ・アジアフェスティバルに招待された。

空路約10時間でフィンランドの首都ヘルシンキに着。早速、公演会場となるオペラハウスを下見に行つて、驚いた。現地スタッフが急ピッチで造る舞台に、巨大な松の絵が据えられていた。

ご存じの通り、能舞台には鏡板と呼ばれる大きな松の絵がある。実物を知らないうちは、そのスタッフが今回のためだけに描いた。非常に立派な絵で、彼らの熱意が感じられ、身の引き締まる思いがした。

電光掲示板にフィンランド語の字幕を流すことなど打ち合わせを済ませ、一安心してホテルに帰ると、すぐ部屋の電話が鳴った。会

真剣な観客 舞台締まる

文化レベルの高さ認識

場に残っていた母からだつた。「フェスティバルの責任者が公演内容に怒っている」

急いで会場に戻ると字幕

担当者の横でさっきまでニコニコしていた責任者が顔を真っ赤にして待っていた。彼は開口一番、「能を短くするのが？」。つまり

「私たちが見たいのは日本で演じられているのと同じ本格的な能であり、短縮版

ではない」というのだ。今回、時間配分を任せられた私は、通常90分かかる能を20分ほど短縮し、ストーリー解説や楽器の説明に当

ても最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

てようと考えていた。日本

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、

でも最近、そうした解説付きの公演を望まれることが多く、外国ではなおさらだろうと思っていたのだが、



大島輝久

喜多流大島能楽堂 北欧公演

おおしま・てるひさ
1976年、福山市生まれ。能楽師、喜多流シテ方。能楽協会会員。祖父大島久見、父大島政允、塩津哲生に師事。東京都在住。



フィンランドの演劇大学の学生に能の手ほどきをする大島輝久さん(前列左)、前列右は姉の能楽師、衣恵さん(ヘルシンキ)

私が考えていたよりずっと本物志向だった。能に対する安易な理解を求めていた自分を深く反省し、短縮なしのプログラムに組み替えた。

2カ国での公演で感心したのは、観客のマナーの良さだった。全員が身じろぎもせず集中して見てくれる。能は観客に静寂を求め、芸術だが、なかなかそうはいかない。国内で演能中、寝ている人やおしゃべりをしてる人を見掛けることもあり、中には突然、携帯電話の着信音が鳴り響くようなこともある。

だが、今回、計5回の公演はいずれも素晴らしい静寂の中で演じることができた。幼い時からオペラや音楽会に出掛ける機会が多い北欧では当たり前かもしれないが、文化、芸術に対する理解度において、日本はかなり後れを取っていると感じざるをえなかった。観客の集中力はダイレクトに役者に伝わり、緊張感のある引き締まった舞台を務めることができた。

最終日、ストックホルムでの公演を終えた後の劇場支配人のあいさつを今も忘れることができない。

その日は「天鼓」という能を上演した。中国に生まれた天才雅楽少年が皇帝の命令に背いたために殺されるが、悔いた皇帝の弔いに亡霊となって現れ、弔いに感謝し舞を舞うというあらすじ。支配人は出演者たちに感謝を述べた後、話した。「天鼓を見て一番、心に残ったのは、殺された少年が皇帝を恨むことなく許しているところ。許し合うことが今、人類に最も必要で、能はそれをほめるか昔から訴え続けていることに感動した」

絶句した。初めて能を見た人がここまで深く本質をとらえ、理解してくれるのか、と。帰途の機中でも彼女の言葉が頭から離れなかった。今回、私は北欧の文化レベルの高さを知るとともに、能はやはり世界に誇るべき日本の偉大な文化であるとこの思いをあらためて強くした。